

2014年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード：4572

✓売上高は、対前年同期比 5.0%減（対前年同期比8百万円減）

✓営業損益は、売上減、売上原価率上昇等により、対前年同期比 38百万円の悪化

（単位：百万円）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2014年12月期第1四半期実績 (a)	168	△109	△111	△111
2013年12月期第1四半期実績 (b)	177	△71	△68	△71
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△8	△38	△42	△40
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△5.0%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値はそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

(注3) 2014年12月期の創薬事業及び全社の計画値は公表しておりません。詳細は平成25年12月期決算短信をご参照ください。

第1四半期 事業別業績の概況



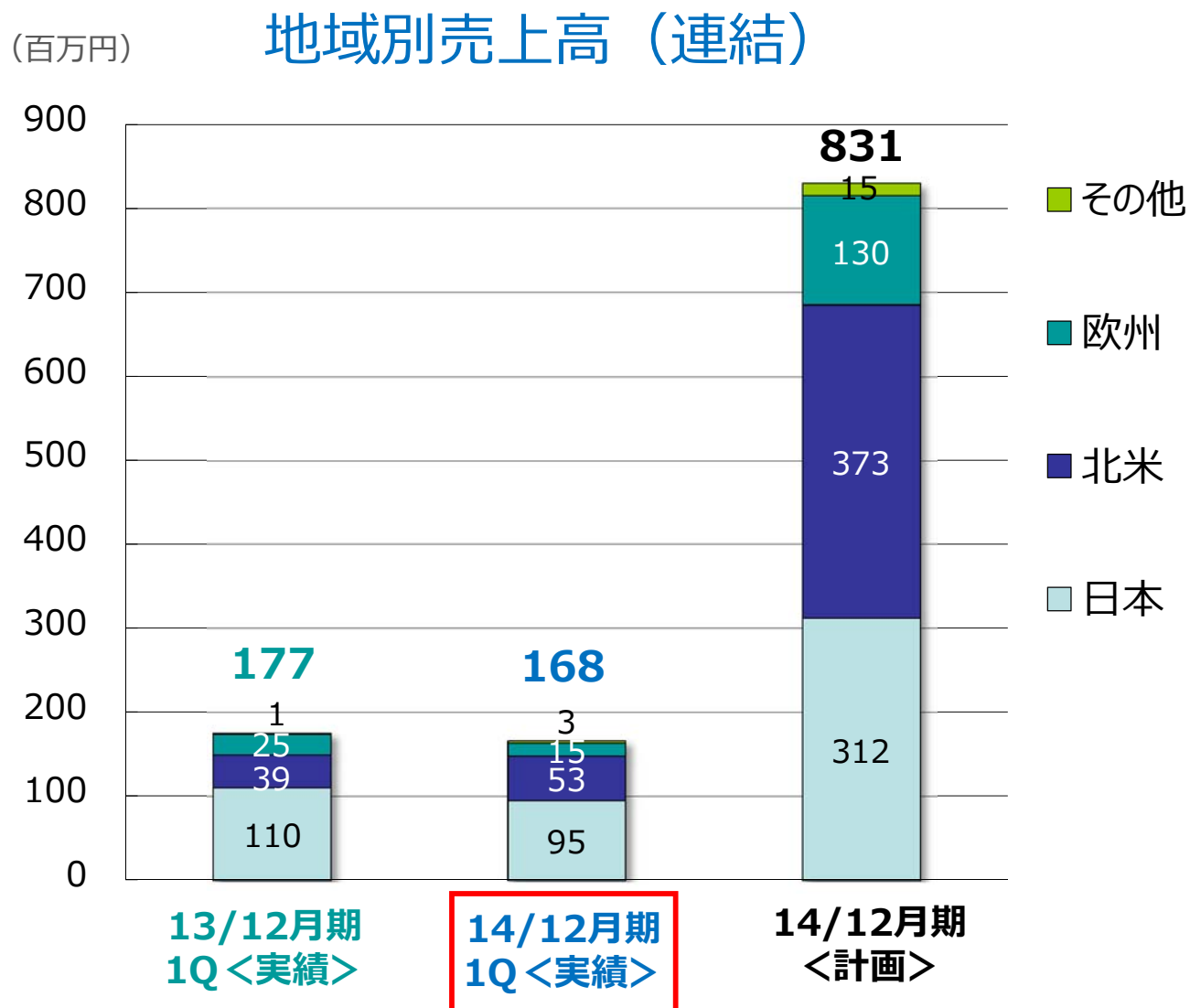
(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2014年12月期 第1四半期実績 (a)	168	—	168	33	△142	△109
2013年12月期 第1四半期実績 (b)	177	—	177	56	△127	△71
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△8	—	△8	△23	△14	△38
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△5.0%	—	△5.0%	△41.3%	—	—
2014年12月期 通期計画 (e)	831			191		
通期計画に対する 進捗率 (%)	20.2%			17.4%		

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 創薬支援事業の当期通期計画値は、2014年2月7日発表の通期計画に基づいております。なお、2014年12月期の創薬事業及び全社の計画値は公表しておりません。詳細は平成25年12月期決算短信をご参照ください。

第1四半期 地域別売上高(創薬支援事業)



創薬支援全体の売上は
前年同期比 5.0%減

・**国内**は前年同期比 13.5%減
⇒小野薬品工業からの大規模スクリーニングサービスの終了
⇒RPPAサービスは順調

・**北米**は前年同期比 37.0%増
⇒プロファイリング・スクリーニングサービスの大幅増加
⇒セルベースアッセイ売上大幅増
⇒キナーゼタンパクも順調に売上げ

・**欧州**は前年同期比 39.5%減
⇒セルベースアッセイ売上が2Qへずれ込み

・**その他**は前年同期比 121.5%増
⇒タンパク販売の持ち直し

為替レート(US\$):	92.47円	102.78円	98.00円
海外売上比率:	37.5%	43.1%	62.4%
顧客数: (注)	122社	118社	

(注): 顧客数は各期において売上を計上した顧客数を表示しております。また、同一顧客に対して複数回売上が計上された場合も1顧客として計算しております。

研究開発費および設備投資について



(単位：百万円)

		2014年12月期 第1四半期累計	2013年12月期 第1四半期累計	2013年12月期 通期
研究開発費	創薬支援事業	5	—	9
	創薬事業	101	96	414
	計	106	96	423
設備投資		42	4	7
期末人員（連結）		52人	52人	52人

(内訳)

研究開発費：化合物の最適化研究や医薬品として適した特性を評価する試験（薬物動態試験等）の外部委託、前臨床試験の外注並びに創薬基盤技術の強化

設備投資：受託試験用機器、研究開発用の研究機器等

バランスシート状況 (連結)



(単位：百万円)

	2014年12月期 第1四半期末	2013年12月末	増減額	増減理由
流動資産	1,198	1,361	△163	
現金及び預金	923	1,067	△144	
その他	275	293	△18	売掛金減、棚卸資産増等
固定資産	597	527	69	受託試験用機器購入、クリスタルゲノミクス社株式評価増等
資産合計	1,795	1,888	△93	
流動負債	113	129	△16	未払金減等
固定負債	167	161	6	繰延税金負債増、長期未払金減等
負債合計	281	291	△9	
純資産合計	1,514	1,597	△83	
負債・純資産合計	1,795	1,888	△93	

自己資本比率	83.8%	84.1%
一株当たり純資産	183.21円	193.33円
PBR(株価純資産倍率)	3.01倍	3.84倍
(参考) 当社株価	552円	742円

(注1) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づく。
 (注2) 株価および1株当たり情報は、平成26年1月1日を効力発生日とする株式分割を反映した数値です。

- TNIKキナーゼ阻害薬の特許が欧州で査定を受ける（1月）
- TNIKキナーゼ阻害薬の特許が中国で査定を受ける（1月）
- 金沢大学がん進展制御研究所と共同研究契約を締結（3月）
- 八洲薬品株式会社と、シンガポール、ベトナム、マレーシア及びインドネシアのアジア地域各国における当社製品販売に関する代理店契約を締結（3月）

(創薬支援事業)

- ▶ 北米地域での売上拡大（バイオベンチャーを中心とする新規顧客の開拓、大口のスクリーニングサービス受注の獲得）
- ▶ RPPAサービスやガンセルライン等のオンリーワンサービスの売上拡大
- ▶ 学術サポート力の強化、ならびに、キナーゼに関する創薬基盤技術に基づく顧客へのトータルソリューションの提供

(創薬事業)

- 重点疾患領域はガンと免疫炎症疾患とする。
- ガン領域では、ガンの再発・転移の原因と考えられている、ガン幹細胞を標的としたプログラムに注力している。これらの創薬プログラムのように積極的に新規コンセプトに基づく創薬にチャレンジし、ガン領域での革新的な新薬の創出を目指す。

固形ガン領域	すでに独立行政法人国立がん研究センターとの共同研究でTNIKキナーゼ阻害薬の研究開発を推進中
血液ガン	当四半期に新たに金沢大学がん進展制御研究所と共同研究を開始

- 免疫炎症疾患領域では、前期にステージアップしたBTK阻害薬プログラムの前臨床研究を着々と推進中。

(創薬事業)

- CDC7/ASKキナーゼ（ガン疾患）及びDYRK1Aキナーゼ（神経変性疾患）は引き続き共同研究を推進中。
- 北里大学北里生命科学研究所との共同研究（新規マラリア治療薬）のテーマは、独立行政法人科学技術振興機構の研究成果最適展開支援事業「A-STEP」の補助金事業として、研究を着々と推進中。
- ラクオリア創薬との共同研究につきましても、順調に研究が進捗。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と生物科学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。